

## はにい 『先生たちも学んでいます』 令和6年6月14日



「最近、自己肯定感が高まったことはありますか？」講師からの突然の質問。考え込む教師たち。

「自分の自己肯定感については、考えたことがなかった。」と、つぶやく。校内研修の一場面。

令和4年度の全国学力・学習状況調査に「自分には、よいところがあると思いますか。」という質問がある。小学生の79.7%、中学生の78.3%が肯定的な回答をしている。

一方で、約2割の小・中学生は否定的な回答をしている。子どもたちの自己肯定感を高めるためには、何が考えられるか。教師から指導を受けたときの子どもの心の葛藤について考える。どのように声掛けをすればよいのか。

子ども役・教師役を演じることを通して「寄り添った声掛けをしてもらったときの方が、本音を話すことができた。」「威圧的な声掛けは、自分のやってしまったことを素直に認めにくいということが分かった。」子ども役を演じて気づいたことを参加者はお互いに言葉にする。

研修の最後に考えたのは、教師自身の自己肯定感の大切さ。教師同士が、ありのままの自分や自分の存在を互いに認め合うことで、困ったときに力になってくれる存在になる。そんな教師の姿を子どもたちは見て、感じている。

「子どもたちのいいところに目を向けていきたい」「安心できる居心地のよい学校をつくりたい」子どもたちと共に、教師も学んでいる。



『はにい』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合しましょう。

ご意見・ご感想は → [inochi4027@pref.kanagawa.lg.jp](mailto:inochi4027@pref.kanagawa.lg.jp)